

1. 会議名	令和4年度 第1回出雲市子ども・子育て会議
2. 開催日時	令和4年6月30日(木曜日) 10時～11時45分
3. 開催場所	出雲市役所本庁 3階 庁議室
4. 出席者	<p><委員></p> <p>肥後功一委員(会長)、高橋恵美子委員(副会長)</p> <p>後藤由美委員、南 浩二委員、森山宏太委員</p> <p>本田貢久委員、山岡 尚委員、佐野裕一委員</p> <p>飯塚 勉委員、飯塚由美委員、村上真澄委員</p> <p>廣戸悦子委員、河上史子委員、原 成充委員</p> <p>高橋義孝委員</p> <p>(欠席)</p> <p>三原勇樹委員、石川千春委員、芦沢隆夫委員</p> <p>堀江泰誠委員、今岡篤子委員</p> <p style="text-align: right;">(以上、順不同)</p> <p><事務局></p> <p>子ども未来部長、子ども政策課長、保育幼稚園課長ほか</p>
5. 次第	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 市長あいさつ 3 会長・副会長選出 4 報告 <ol style="list-style-type: none"> (1) 令和4年度の放課後児童クラブの入会状況等について 5 議事 <ol style="list-style-type: none"> (1) 令和5年度の認可保育所等の定員について (2) 出雲市子ども・子育て支援事業計画の中間見直しの方向性について 6 その他 7 閉会

6. 議事要旨 以下のとおり	
事務局	<p>1 開会</p> <p>定刻に開会。</p> <p>委員の任期は令和4年度、5年度の2か年であることを説明。</p> <p>新任委員自己紹介（省略）</p> <p>[会議成立]</p> <p>委員20名中15名が出席し、出雲市子ども・子育て会議条例第6条第2項により、定足数を満たしていることを報告。</p> <p>[会議の公開について]</p> <p>本会議は出雲市子ども・子育て会議規則第3条第1項の規定により、公開で行うことを説明。</p>
市長	<p>2 市長あいさつ</p> <p>皆さん、おはようございます。本日は第1回の出雲市子ども・子育て会議を開催いたしましたところ、もう既に梅雨も明けて、大変暑い中、皆様方にはご出席賜りまして、誠にありがとうございました。会の冒頭に当たりまして、ご挨拶を申し上げます。</p> <p>皆様方には平素から子育て支援に格別のご支援をいただいておりますことを改めて感謝申し上げます。本当にありがとうございます。</p> <p>また、委員の皆様方には、各分野を代表され、未来を担う本市の子どもたちが健やかに成長することができる環境づくりのために、様々なところでご意見、提言をいただいております。</p> <p>今回は新たに、7名の方がこの委員に就任をしていただいたところであります。それぞれのお立場、また専門性を生かして、いろいろな忌憚のないご意見を頂戴したいというふうに思っております。</p> <p>さて、最初にコロナのことにちょっと触れさせていただきたいと思えます。連日、コロナの感染者が増えています。特にこの出雲市においては増えておることによって、大変皆様方もご心配、また不安なこともあろうかと思っております。多分、今また11時過ぎに県が発表される中で、多くの感染者数が確認されたのではないのかなと思っております。しっかりと感染予防対策をして、それぞれの家庭、職場等でそのような取組をこれまで以上にしていきたいと思っております。</p> <p>そうした中、保育や家庭、保育や教育を取り巻く環境の中でも、このコロナ対策に非常に配慮いただいております。基本的な感染対策、三密の回避、また手指消毒、健康観察、様々なことがこれまで</p>

	<p>以上に本当に気を配って、従事していただいておりますということに感謝を申しあげるところです。何とか早くこれを終息させて、子どもたちも元気に園の中、学校の中、そしてまた外、いろんなところで活動してもらえよう、私たちも一生懸命取り組んでまいりますので、皆様方のご協力もお願いしたいと思います。</p> <p>そして、国においては、先日、国会でこども家庭庁創設に係る法案が成立したところであります。来年度の設置に向け、準備がこれから進んでいくものと思われます。子どもの最善の利益を第一に考え、子どもに関する政策を我が国、社会の真ん中に据えて取り組む、子ども真ん中社会を目指し、強い指令塔機能を持つとされておるところでございます。</p> <p>また、一方、本市におきましても、今後8年間のまちづくりの指針となる次期総合振興計画を策定しておるところでございます。9月には、議会に提出となっておりますところでありますが、その中の子育て分野につきましては、『「産みたい」、「育てたい」を応援』、これをキーワードに具体的な施策にこれから取り組んでまいりたいと思っております。</p> <p>また、この会議では、第2期出雲市子ども・子育て支援事業計画に基づき、各施策の実施状況について点検、評価いただくとともに、本年は令和2年度からの5年間の中間年に当たりますので、社会情勢の変化なども踏まえ、見直しすることとしております。委員の皆様方には、本市の子育て支援施策の充実に向けたご助言をいただければと思っております。</p> <p>終わりになりますけれども、この会議が有意義なものになりますように、どうかよろしくお願いを申しあげまして、私からのご挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。</p>
事務局	<p>3 会長、副会長選出</p> <p>会長に肥後功一委員、副会長に高橋恵美子委員を選出。</p>
事務局	<p>[出雲市子ども・子育て会議について説明]</p> <p>出雲市子ども・子育て会議は、幼児教育や保育、地域の子ども、子育て支援を総合的に推進するために、平成27年4月に施行された子ども・子育て支援新制度に基づくものです。子ども、子育て支援に関する事業計画の策定や様々な市の施策への意見を聞く場として設置した審議会となります。この会議では、「いきいきこどもプラン」、現在は「第2期出雲市子ども・子育て支援事業計画」についてなど、本市の子ども、子育て支援に関する施策の推進のために調査、審議などを行っていただく場となります。</p>

	<p>会議の役割としましては、市が認定こども園、幼稚園、保育所などの利用定員を定める際にご意見を伺うほか、事業計画全体に対するご意見、施策の総合的・計画的な推進のための必要な事項の調査、審議などが役割となっています。</p> <p>委員は20名以内で、今回お願いしております委員の皆様の任期は、令和4年、5年度の2か年です。</p> <p>昨年度、一昨年度につきましては、それぞれ会議を2回開催して、事業計画の進捗状況や定員などのご議論をいただいたところです。</p> <p>本年度は、子ども・子育て支援事業計画2期の中間の見直し年となりますので、おおむね4回程度と予定しております。</p>
事務局	<p>4 報告</p>
	<p>会議の議長は、子育て会議条例第6条第1項の規定により会長が務める</p>
会長	<p>今日は報告事項から入るようで、報告が1件ございます。</p> <p>令和4年度の放課後児童クラブの入会状況等について、資料1に基づきまして、事務局からご説明をお願いします。</p>
事務局	<p>〔事務局説明〕</p>
会長	<p>今の説明につきまして、今年度の放課後児童クラブの入会者がこのように決定したという数の話でございます。ご質問等ございませんか。</p> <p>未決定の方が、去年よりも数がちょっと増えているという状況です。どこのクラブだっているのは、このことだけでは分からなくて、子ども・子育て計画の中では全市域でやっていくので、こういうご報告になるということですが、皆さんから、何かご質問がありましたらお願いします。</p>
委員	<p>児童クラブのことでございますので、私から現状なり課題を申し添えておきます。この表にありますように、令和4年度は前年と比べて約100名超の児童数が入所したということでありまして、市としても、ハードの整備が着々と進み、そしてまた、今後の整備につきましても触れてあるとおりです。</p> <p>今日の資料にあります、取り巻く環境、資料4のページ、6ページには、特に55歳から59歳の女性の方の就業率というのがこの20年間で140%ぐらい伸びているというわけですから、当然、そうした社会情勢の中にあって、若い方々も含めて、仕事をされる。当然、保育園、幼稚園、あるいは児童クラブに預ける方が多くなる。それに応えていかなければ</p>

	<p>ばならないという、言わば社会的な情勢があるかと思えます。</p> <p>他方、これだけ入所決定者が多くなりつつあり、これからも多くなるであろうという中で、その施設を運営する側の人材確保が大変古くて新しい問題です。今、私どもの運営委員長会でよく議論をされておりますのは、こうした入所の申込と同時に、時間の延長等についても、今、検討されつつあります。午後6時とか6時半では、仕事の関係上、お迎えに来られないとか、冬休み、夏休みの長期で学校が休みになった場合に、朝8時からではとても仕事に間に合わないということがありまして、当然そういうニーズがあるということです。そうしたニーズも、運営する側として、一定の理解もしながらも、保護者のニーズばかり行政として吸い上げて、そもそも子どもの家庭教育の原点とか、そうしたものがおざなりになりつつあるのではないのかなど、もう一度そういうことの両輪の中で、考えていかなければならないし、また、そういう発信をしなきゃならないというような議論がございます。</p> <p>特に、女性のこうした社会進出、あるいは就業が多くなるという事実もあるわけですから、他方の働き方改革であるとか、あるいは職場のそうした子どもと過ごしやすい環境づくりであるとかを、もう一度やっぱり揺り起こすということも併せて、しっかり行政として取り組んでほしいという意見が特に最近多数出ております。こうしたことは、先ほどありました出雲市議会でも少し質問いただいたところですが、こうしたニーズと、それから本当のあるべき姿、そうしたものを少しやっぱり見直して、子育てというものをどのようにしていくかと、社会の中で育てていくかというべきことを掘り下げてほしいという議論がございますので、委員の皆様におかれましても、ぜひそうしたことのご理解の中で、児童クラブはもとより、出雲の子ども・子育てを、しっかりやっていくということをよろしくお願いいたします。</p>
<p>会長</p>	<p>この課題は何度も繰り返されていて、非常に難しい課題の一つです。これ、ちょっと言い方が誤解を招くかもしれませんが、一方的に親御さんが育児の外注化ばかりしているんだということでもなく、それこそ社会における親御さんの働き方の問題、企業における子育てをしている最中の従業員への関わりの問題、様々、社会的な課題を含んでいて、単純な議論ではないといつも感じるところです。</p> <p>皆さん、これに関わって、ご意見があれば承りたいと思います。いかがでしょうか。</p>
<p>委員</p>	<p>今、委員がおっしゃいましたように、非常に核家族化が進み、昔はおじ</p>

	<p>いさん、おばあさんと一緒だったり、ご近所にもたくさんそういう方がいらっしやったりして、子どもと関わるのが非常に多かったんですが、最近、私の感じていることは、私の孫もそうなんですけど、なかなかそういう場がない。両親とも働きに出ている、預けざるを得ないみたいなね。会長がおっしゃるように、こういう社会で本当にいいのかなと。</p> <p>悪いことをしても、なかなか親も今、叱ることもできない。昔は、近所のおじいさん、おばあさんに、お叱りを受けたりとか、悪さをすれば指導されたりしたんですが、今はそういう機会も非常になくなってしまって、挨拶一つにしても、変なおじさんから挨拶されたらといって、返事がないケースが多いそうです。この間も子ども見守り隊、何十年とやっておられる女性がおっしゃっていましたが、今の新入生は、おはようと言っても返事を返さないのよと。これを1週間ぐらい続けると、あっ、あの人は大丈夫そうだっていうことで返事が返ってきたというお話をされまして、そういうことを続けることがやっぱり大切ですねという話ですけれども、やっぱりもう根本にそういう問題があると、つくづく最近思っているところです。</p>
<p>会長</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>この子育ての会議は、子ども・子育て政策をどうするかっていうことだけではなくて、次世代育成のプランもこの中に含まれているので、こういった議論は一番根本には大事な議論です。都会と同じような制度ですけれども、都会と同じようにそれを運用するかどうかっていうことに関しては、この市の考え方があっていいと思うんですね。皆さんのご意見が反映させられればと思ったりもいたします。</p> <p>ほかにかがででしょうか。</p>
<p>委員</p>	<p>主任児童委員をしています。私どもの会の中では、7つの地域の代表者が集まる機会が月1回ございまして、その中で様々な地域の話进行うんですが、やはり我々は、ゼロ歳から今は18歳まで主に見ているというような立場上、本当に世代別に考え方も違いますし、先ほど委員がおっしゃったように、地域のありよう、それから家族のありようがすごく変化してきています。それで、多様性もあり、いろいろなところを吸い上げながら、一つの行政の中の取りまとめをしていかれると思うんですが、赤ちゃん世代は、例えば、健康増進課では、いろいろな妊婦指導とかあるわけです。子育て会議では、就学前児童が主になってくるかと思ひます。その後、今度、教育委員会という立場で、その後のところがあります。その連携っていいですか、つながりがすごく大事かなと思ひます。一口には言えな</p>

い。その間に、幼稚園教育、幼児教育っていうところが間に挟まっています、ゼロ歳から就学、小学校に入るまでところに、2つのパターンを経験する保護者さんの家庭があるわけです。そういったところで、幼児教育をどのように考えていっておられるのかってということが毎回、私も質問させてもらっているんですけども、今、委員と会長が言われたように、本当に多様性のある中で、預かってもらうって、とてもありがたいくて、保護者にとっては安心な場なんですけど、なかなかそうすると地域教育っていいですか、地域力みたいところはどくなのかなっていう疑問符が立つんですね。それで、その結果、今、小学校では足並みをそろえるのに大変っていうことを伺っています。一つの学校にたくさんの保育所から子どもさんが入ってくるわけです。大きいところは20か所ぐらいとか、小さいところでも7か所ぐらいとか。そうすると、それぞれの保育園、幼稚園での取組も違ってきて当然なんですけど、そこにまた家庭教育が加わってまして、そういうふうに考えると、どこがどういうふうにして進めていったらいいのかなっていう、常に毎月の会議で話が出るんです。私もやはり困ったとか、悲しいとか、悔しいとか、不安だとか、そういったところに接する場面が多い仕事なんです。

それで、小学校に伺うと、子どもたちが結構、不登校とは、不安だっていうのが多いそうです。何の不安かも気づかない、分からない。果たして何でしょう、核家族だからとか、同居だからとかいうくくりは、もうあまり関係ないって言ったら変ですけど、核家族世代でも、いろんなこと考えて頑張っているご家庭もありますし、同居でも不登校は起こっていますし、行き渋りも起こっています。

ですので、この辺を地域の中でどんなふうにも、我々の役目っていいですか、小さなことですけど、声かけぐらいしかできてないんです、いろいろ見守りとか。それで大丈夫かなと思いつつ日々活動しておりますが、やはり幼児教育っていうところ、すごい肝腎要かなって思うんですが、その辺をまたご議論願えたらと思います。

会長

先ほどの問題を基点にして、いろんな広がりがあるので、今は幼児教育へ広げてお話しになりましたし、ほかのことへ向けて広げることも。今、一瞬不登校にも向かっていきましたし、そういう子どもの問題行動や不安傾向に広げていくこともできる。本当にここを根っこにしていろんな議論ができると思いますが、今日のところは皆さんから少し。今、委員からの放課後児童クラブのことについては、多分、受けられる側の方の資質、ということが大事かっていうこともあるし、それから、またそこで求められる活動、親さんが放課後児童クラブに何を期待するか様々だという難

	<p>しさもあると思うんですね。そういった児童クラブのことについて少し議論しませんかというお話をいただきましたので、そこを基点にまた考えてみたいと思っております。</p>
<p>会長</p>	<p>保護者の方からのご意見もいただきたいと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>私は今、保育園の保護者代表として来させていただいておりますが、小学校にも2人子どもがおりまして、児童クラブに2人とも預けさせていただいております。今、委員からもありましたが、すごく多様性っていうのがやっぱりあるんじゃないかなと私も感じております。</p> <p>私の世帯は、おじいちゃん、おばあちゃんがいる世帯ですが、おじいちゃん、おばあちゃんも働きに出ていまして、家にいない状態です。そういったこととか、核家族だからとか同居世帯だからとかいうくくりはもうそんなに関係ないんじゃないかなっていうのはすごく感じたところです。もっと柔軟に、制度上難しいかもしれませんが、入所とか、このときだけちょっと入れさせてくださいとかいうことが可能であれば、そういうお願いもできるかなっていうのも思っているところです。</p> <p>今、いろいろ話を聞かせていただいている中で、いろんな方がいろんな思いを持っておられて、それを取りまとめて、出雲市全体としてこうしようっていうのはなかなか難しい問題なんだなっていうのを実感したところです。</p>
<p>会長</p>	<p>子どもの時代っていうのは本当に短いんですが、その後に非常に大きな影響を与えるものでもありますので、大事に議論していきたいと思っております。</p> <p>先に進ませていただいているいいですか。ちょっと一つだけ、先にも関わるので、事務局に聞きたいですが、資料1のところ、今年度については入会を決定した方が2,519人いて、その内訳として、1年生から3年生が2,245人の、4年生から6年生が274人という数字になっていますよね。これは後から出てくる資料5との対応ですけど、資料5は、中間見直しに当たりまして、そもそも立てていた目標値が今、現実とどれぐらいずれてきていますかっていうことで出てきているものですよ。この5ページに放課後児童クラブの数の見込みと実績値が出てきているけど、令和4年度のこの値は今ご報告のあった値と違っていますが、それは何に基づいていますか。</p>
<p>事務局</p>	<p>資料5の5ページですね。利用の実績値2,551人、これは、時点日</p>

<p>会長</p>	<p>が5月1日と異なっています。先ほど資料1でご説明しましたのは、4月1日時点で取りまとめております。</p> <p>分かりました。日付が違って、ずれているということですよ。</p>
<p>会長</p>	<p>〔議事〕</p> <p>そうしましたら、本日は議事が2件ございまして、1つが令和5年度の認可保育所等の定員ということで、市が認可保育所等の定員を定めるに当たっては、この委員会の意見を聞くというふうに規定されておりますので、皆さんからご意見があったら伺いたいと思います。</p> <p>では、資料2に基づきまして、ご説明お願いいたします。</p>
<p>事務局</p>	<p>〔事務局説明〕</p>
<p>会長</p>	<p>議題は、令和5年度の定員がプラス40となり、現在の5,947人から増えて5,987人になるということで、これについてのご意見をということでございますが、その背景として、今年の5,947人に対してどのような申込者数があり、それが国基準によるところの理由の方を除くと、ほぼ見込数としては予定の範囲内に入っているというご説明でございました。これ、264人を引きますと、6,193人ですので、これでいきますと、大体先ほどの資料の5の中の今年度の見込数の中では、そう大きくずれてないと言うことができるかもしれませんね。この辺りも見ていただいて、来年度の定員数について、皆さんからご意見がありましたらお願いいたします。</p>
<p>委員</p>	<p>来年度の保育園の定員が40人増えるということで、いいことだと思っています。今年度は未決定者数が264人だけれども、国の基準で当てはめると待機児童はいませんという報告でした。5つの除外する理由を詳しく説明いただきましたけれども、だとすると、要するに国の基準で待機児童っていう人はどういうパターンかを教えていただきたいのと、それから、この5つの理由の3番目で、4月1日以降に入所希望している人っていうのはまだいいんですよ、これはご本人の希望ですから、まだ入れられない。あとの理由の中では、こういう文章で書いてあっても、一人一人は切実な、様々な願いというか、ご希望があると思うんですね。例えば、兄弟別々の保育園ってところもまだゼロではないはずですよ。私は、国の基準はどうしてもぱっと見たときに、数が少ないほうがいいわけですか</p>

事務局	<p>ら、こういう基準が下がったこと自体が問題だと思っけていますけれども、それにしても、3番以外の理由でこれだけ入れなかった人たちがいる。その人たちのためにも、来年度は40人の増ですけれども、そもそも今後の定員確保の進め方も1、2、3の、やはり私は、ぎゅうぎゅう詰めではなく、特にコロナ禍においては、ゆとりのある、ゆったりした保育園で子どもたちが伸び伸び過ごしてほしいなというふうに思っけていますが、今日聞きたいのは、その国の基準の待機児童っていうのはどういうことなのかという点だけを取りあえずお聞きしたいと思っけています。</p> <p>1から5番を除いていくと、どういう方々が待機児童になるかということですが、4番の、ほかに利用可能な保育所があるが特定の保育所を希望というところで、第3希望まで保育所を書いた中で、どこも空いてなくて、しかも自宅から今のところ10キロ圏内を書きながらどこにも入れない方というのが実際の待機児童としてカウントされていきます。実際、令和3年度の1人がそういう方でした。</p>
会長	<p>よく、保育所落ちたっていう、あのやつですね。たくさん希望を書くんだけど、どれも入れませんでした、特にここがいいとか言っけてないのっていうことですよ。</p>
事務局	<p>はい、そういうことです。</p>
委員	<p>分かりました、ありがとうございました。</p>
委員	<p>この委員になってから、毎年あちこちの保育園の定員が増えているという気はしているんですけども、この後の表で出てくるように、毎年子どもは減っているんですよ。こんなに増えていいのかなって単純に思うんですけども、その辺はいかがでしょうか。</p>
会長	<p>事務局ということもあるかもしれませんが、やっぱり必要に応じて、必要なところは増やさなきゃいけないところもあるんだよねっていうことで、一方は、これ以上増やしても、子どもがそもそもいないのっていう地域もありますよっていうことですよ。私もちょっとその辺が冒頭気になったのでお話ししたんですけど、やっぱり大きく分けても7つの地区があって、その7つの地区によって様々な状況がある。だから、それを今後どうしていくかっていうことで、少し目の細かいことも考えていかなきゃいけないっていうことですよ。</p>

	<p>現在のところ、まず市は、先ほど3つ考え方を示されたように、基本的には既設の施設の中で、施設整備を伴わずに定員増できる場合はお願いしますということで、さらに増改築でできる場合はお願いしますということで、ニーズのある地域に関しては、多分、それぞれ公立ではなく民間の保育所の方々がお考えになって、またそこと協議して増やしていかれているというのが現状だというふうに思います。それでもどうしても無理な場合は、多分、20%枠ですかね、定員を20%膨らませるっていう枠を使って吸収しているというのが実態だろうと思います。また、そんなことまで全くしなくても十分に入れる保育所もあるということですよ。その辺、委員はどんなふうに思われますか。</p>
委員	<p>湖陵町の場合は、幼稚園と保育園が1つずつあり、私は両方に協議員とか運営委員で携わっているんですけど、保育園の場合は結構縦割りで、3歳から5歳の1クラスで24~25人ずつですけども、幼稚園の場合は壊滅的で、3歳児になると5名しかいないとか、しかも、この5名全部男児なんです。ある一定の人数に減ると、混合保育になってしまって、そうすると非常にやりづらいというか、教員なんかも少なくなるというようなことで、その辺が、幼稚園と保育園のバランスがいかげなものかなって常々思っておりますが、かといって、引っ張り合いをしても、なかなか難しいところではあるんですけど、その辺が地域によって、会長おっしゃるように、乙立幼稚園がなくなったり、こども園になったりっていうことがございますので、その辺が出雲市全体で捉えると、やっぱり非常に差があるなっていう気はしております。ですから、一概に出雲市でこうやっていますとかよくおっしゃるんですけど、やっぱり地域によってもう少し目配りしていただけたらいいんじゃないのかなというふうに思います。</p>
会長	<p>要は市民の皆さんのニーズに合った子どもが増える装置をどんなふうにつくっていくか、しかも、質の高い保育をどう提供するかっていうところがポイントなので、そこに向かって、何がいいのかっていうことですよ。ね。</p> <p>必ずしも統廃合を進めるのがいいとか思っているわけじゃないですけど、何度も言いますが、その地区の方々がやっぱり安心して子どもを産み育てられる形で、最終的には子どもの数が少し増えていくような装置をどうつくるかっていうことが本当に大切な課題で、出雲市も多分、中間見直しにおいて、そういう話も少しは出てくるんじゃないかなと思っております。</p> <p>今、来年度の認可保育所との定員について議論をしているところでござ</p>

事務局	<p>いますが、ほかにご意見ございませんでしょうか。</p> <p>そうしましたら、この委員会で特段これについて異議があるというわけではないということで、お認めいただいているっていうことにさせていただきたいと思います。</p> <p>本日の議事の2番目ですが、出雲市の子ども・子育て支援事業計画の中間見直しの方向性ということで、今日は見直しの内容というよりも、全体の項目の中のこういった項目について見直しをかけていく必要があるかということで、事務局で考えておられる案をご提案いただき、皆様からご意見をいただきたいと思います。ご説明をお願いいたします。</p> <p>[事務局説明]</p>
会長	<p>ご説明がありましたとおり、中間見直しに当たりまして、データに基づいて、数字のずれが大きいところを取り上げて、見直しますという話がありました。15の事業について話があったわけですが、この6つについてということと、それからまた、見直しを行わないというところについては、ご説明が時間の関係で飛ばされましたが、皆さんから見て、ここもう少しやはり課題があるんじゃないかっていった点があったら上げていただきたいなと思いますが、いかがでしょうか。データが多いですので、少しゆっくりご覧いただきまして。</p>
委員	<p>幼稚園関係で、早朝とか夕方、預かり保育をされるっていうふうに聞いているんですが、保育園との一番の違いは、夏休みにお昼が出ないっていうことを保護者の方から聞いたことがございまして、幼稚園は給食センターがやっているんですかね。保育園は自分のところでお作りになっているんでしょうか。そういうこともあって、どうしても0歳児から、0、1、2と保育においても、3歳になって、幼稚園に転園するっていうのが難しいっていうようなお話がこの間出たんですけども、その辺の何か市としてのお考えとかございますか。</p>
事務局	<p>保護者の声として、そういう声は非常によく聞く内容です。ただ、我々も夏休みの幼稚園預かり保育利用者に対する配食ができないかという相談は以前もしたことがあります。給食センターの機械のメンテナンスを夏休み期間中にやらないとほかでやる期間がないということで、ちょっと難しいという話を受けたことがあります。それを受けて、各幼稚園で何か工夫ができないかということも考えたこともありまして、ある幼稚園では、預かり保育を利用される方々に、お弁当の注文をあらかじめ利用者を取っ</p>

	<p>て、地元のお弁当屋さんに、まとめて注文されるという方法を考えられた園もあります。ただ、それだったら弁当を作るわという形で、弁当を持って来られる方も多く、なかなかまとまった数にならなくて実現されなかったところもありますが、実際やっているところもあります。給食っていうことになりますと、先ほど申しました機械メンテナンスの関係で、夏休み期間中は提供できないということでございます。</p>
委員	<p>湖陵幼稚園でも、お弁当、おかずだけ取って、ごはんは持ってくるというようなことを検討していると伺いましたんで、そういうこともありかなというふうに思いました。</p>
委員	<p>7ページ6番目の乳児家庭全戸訪問事業の中で、訪問者が保健師、助産師と共に、民生児童委員とか主任児童委員ってというようなところがございます。私は自治協会もずっとやっておりまして、今、まさに民生委員の改選時期でございまして、本来であれば厚生労働大臣の委嘱を受けた、児童福祉法におけるそうした役割があるんですけども、実際にそのような方々が本当にいなくなりまして、就労している親たちも、大変高年齢まで仕事をする時代にもなりましたし、なかなかそうしたことに携わっていただく人がいなくなりまして、本当に四苦八苦しているところです。</p> <p>民生児童委員にはいろんな役割があると思うんですけども、こういうふうに家庭訪問だとか全戸訪問だというようなことで言い続けられますと、民生委員の方々のボリュームが多くなって、民生児童委員なり主任児童委員の役割とか、そうしたものは本当はどうなのかということも十分勘案をしていただいて、こういったところの表示なりをやっていただければと思いますので、ちょっと申しあげておきます。</p>
会長	<p>ありがとうございます。確かに、一人一人の住民の顔が見えるような形で児童福祉に携わる方々が回られることは非常に重要ですけど、地域に人口が減ってくると、それだけを支えるリソースがやっぱりないということが、どこの地域でも大きな課題になってきていますよね。同じ問題とはちょっと違うけど、全国的にPTAやめようっていう動きも起こってきていまして、その会の活動に伴う集まりになぜ出いかなきゃいけないかっていう、その負荷がすごくかかってしまうと。本当に全国的にこういう課題があるんだなっていうふうに思います。ほかにいかがでしょうか。</p>
委員	<p>児童クラブのことで聞いてみたいんですけど、量の見込みと確保方策の見直しを行うということで、これは必要だとは思いますが、私が</p>

事務局	<p>今回50施設あるうちの14施設ぐらい話を聞いて、やっぱりこの職員確保の課題が本当に極めて喫緊の課題だなと思っていて、50施設あるうち、職員の確保に悩んでいるような施設はどれぐらいあって、それに対して、市として今後どういうふうな方法で職員確保に向けていくのか。その辺の現状を考えておられるようなことがあれば教えていただけませんか。</p> <p>各クラブで生じている不足ということについて、具体的な数値は承知しておりませんが、それぞれ、例えば夏休みの時期ですとか、不足する時期、募集をかけておられることは承知をしております。ハローワークでも募集をなさっておられるところです。また、県では、そうした人材をあっせんする制度を設けまして、その事務費の一部を県から補助していただいているところです。まだマッチングは実績としてはできておりませんが、そういった取組を各クラブにご案内をしているところです。</p>
委員	<p>今年度、処遇の改善をするためには、委託料を増やしていると思うんですけども、実際、働いている人っていうと、扶養の範囲内で働いている人が大半であって、給料が増えたからって言って、それに合わせて働き手が増えるかっていうと、現状増えないような部分が課題としてあると思うんですね。派遣会社の話が今出ましたけども、派遣会社に登録している人自体がまずいない。さらには、ある児童クラブでは、ハローワークでも募集していても一切問合せもない。コミュニティセンターの会合なんかを通じて、そういうような募集をかけても一切応募がないっていうような現状もある中で、この今、働き方自体にも課題があるのかなと私は思っていて、フルタイムで働けるようなこともやっぱり考えながらやらなければ、今の働き方のまま募集をしても厳しいのかなって正直思っています。ですから、市でまず職員の確保の部分で、50施設、民設、公設ありますけども、職員確保でどれぐらいの施設が課題を持っているのか、そういったことをまず現状把握をした上で、しっかりそこに対して、その増え続けるニーズに対して職員確保をきちんと行っていくことも同時並行してやっていただければなと私は思いますので、よろしくお願いします。</p>
事務局	<p>現在の職員の不足の状況、そこについてはそれぞれのクラブからまた聞き取りをしたいと思えます。例えば、夏休みなどに職員がたくさん必要なとき、島根大学、それから県立大学などで、学生さんたちの体験ということで、派遣するという取組をなさっておられます。そういったことも各クラブに紹介しているという状況です。また、現状の確認等を行っていき</p>

<p>会長</p>	<p>いと思います。</p> <p>県内、市内の人的なリソースをどう組み立てるかっていう大きな課題ですよね。一つは、処遇改善の問題は確かにあると思います。もう一つは、やっぱり人材バンクをどうつくるかっていうことで、ある種、地域の本気度が問われているところで、ここから先、これがもし増加し続けるっていうことを考えるんだったら、早めにきっちりした制度をつくらないとなかなかうまくいかないし、地域の方々の善意に頼るのはもうそろそろ限界になっているなど、何年か前から委員もそういうふうにおっしゃっていて、私もそうだなと思っておりました。</p> <p>ほかにいかがでしょうか。よろしゅうございますか。</p> <p>ちょっと1点、3年ぐらい前だったかな、子どもの貧困の対策っていいでしょうか、貧困対策の推進に関する法律ってというのが改正されて、各市町村、市町にそれに対応する施策の計画を立てるよという、努力義務だったように思いますけど、そういう指示があったように覚えています。内閣府かどっかからの通達の資料の中には、単独で子どもの貧困に対する対策、その法律に沿って計画を立ててもいいし、子ども・子育ての計画の中にそれ入れ込んでもいいっていう、そういう選択が示されていたように記憶するんですけども、その辺り、出雲市はどうされますか。</p>
<p>事務局</p>	<p>子どもの貧困対策につきましては、それぞれの施策の中で取り組んでいる部分もありますが、やっぱりそれを全体的にきちんと位置づけておく必要があるというのを、関係課子どもに限らず、貧困家庭の関係で、福祉推進課も担っております。子ども食堂の事業を3年度の2回目の会議でも報告しておりますけれども、そういった取組について、福祉と子どもの部局と合同で検討しております。計画のどういう計画にどう位置づけるかというところも、庁内、市役所の中で検討している状況でございます。</p>
<p>会長</p>	<p>分かりました。島根県内、もう終わっているところが5町村ぐらいあります。なので、出雲市はちょっと遅いかなっていうふうに感じているんですけども、法律が改正されて、子ども貧困対策に関する大綱がつけられて、それに基づいて各市町村が子どもの貧困対策について計画を定めるよということが努力義務になっているので、計画は定めたほうがいいんじゃないかと。各所でやっていますみたいな話は多分通用しないので、独自の計画を定めるか、もしくは子ども・子育て支援の計画の中に統合してもいいですよっていうことまで内閣府は言っているんで、これは取り組まれたほうがいいんじゃないかと思って、せっかく見直しをかける年ですか</p>

副会長	<p>ら、入れられてもいいんじゃないかなというふうな気がしております。</p> <p>ほかに皆さん、ございませんでしょうか。</p> <p>そうしましたら、中間見直しに関わりまして、今、ご提案があったような項目について見直していくってということで、事務局で進めていただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。</p> <p>そうしますと、議事に関しましては、本日用意したものは以上でございます。</p> <p>終わりに当たりまして、少し時間ございますので、もしご発言ございましたらお願いいたします。いかがでしょうか。</p> <p>資料の11ページのところですけれども、要保護児童の対応状況の資料をつけていただいております、児童相談件数の増加のところなんですけれども、令和元年ぐらいいかな、児童虐待が増えているのではないかとちょっと心配をしておりましたが、どうもそれ以外の相談がかなり増えている状況があるようでして、この虐待以外の相談は、どのような相談が、結構ここ3年ぐらいで、ぐっと増えているようなんですけれども、分かりましたら教えていただけますでしょうか。</p>
会長	<p>今日の資料の11ページのところですかね。いかがでしょう。</p>
事務局	<p>要保護児童の相談件数につきましては、虐待が疑われたり、子どもさんをもう育てられないという保護者がおられたりとか、一般的な子育て、育児についてのご相談等、様々なものがございます。その中で、虐待として市で認定をして相談を受けたということが20件ありました。全体的な相談としては、やはり関係機関、子どもさんの所属する学校とか、保育園とか、そういったところから心配の相談が入りやすくなっていて、件数が増えていると思っております。あと、全国的にも、DVに関して、子どもさんが同席していた場合に、面前DVとして、警察からの通報というところでも件数の伸びがあります。</p>
副会長	<p>ありがとうございました。そうすると、ここ二、三年ぐらいのこのコロナの流行みたいなところと直接関係があるわけではないという感じでしょうか。</p>
事務局	<p>色々なストレスの中の一つとしてはあると思いますが、直接の関わりとしてはありません。</p>

<p>会長</p>	<p>今回、少し参考までにだと思えますけど、子どもを取り巻く状況についてもこの3年間で少し変わった点なんかを書いていただいているんじゃないかなと思えますけど、資料的にはまだ中間段階なので、結構古い値が入っていたりもしますし、それから、統計としてこうだからというよりも、今後3年間の施策を考えていくに当たって重要な項目をちゃんと考えて出していただくっていうような、例えば今のような数字は私もそこが気になったんですけども、虐待以外の相談の件数がこれだけ増えているっていうことになると、その中身は何で、その中身に対して施策がちゃんと打っているのかっていうとこまで追い込まないと、数字上げてても意味がないので、そここのところも見えていただきたいなとちょっと思いました。</p>
<p>委員</p>	<p>ご案内のように、出雲市、特に斐川町に大きな企業がございまして、旧出雲市をはじめ、斐川町にもたくさん外国人、とりわけブラジル人の方々が非常に目につくようになりました。そして、そこには未就学児含め、就学児の子どもさん、そして、私らの児童クラブにも随分入ってこられるようになりました。言葉の問題とかいろいろあります。比較的このブラジル人の方は、今、来てらっしゃるのは、2世、3世の子孫の方が多いということもありまして、顔だちも非常に日本人に似ている方もあれば、性格的にも非常に穏やかな人が多いということがあります。こうした子育てという観点に立った場合に、そういう子どもたちがこれからもますます増えていくんじゃないかなろうかと思えますけれども、こうした子の関わり、子ども・子育てっていう面にしていくのか、多文化共生という中で、早晚メジャーになってくるんじゃないかなろうかと思えます。</p>
<p>会長</p>	<p>出雲市は、人口的にいえばかなり先進地ということになるわけで、数年前に中学校を卒業した後の進路がどうなっているのかなっていうことが気になって、県の教育委員会にも問合せをして、このことをしっかりやらないと、とにかく日本に行って生活はしたけど、いわゆる学歴的にはブラジルにいる子どもよりも低い学歴で終わってしまっているということになると、なかなか日本の中での就職を探していくことも難しいし、もちろん日本語のサポートができないとなかなか日本国内での就職が難しいっていう状況になって、今は人口的にはいいかもしれないけど、やがて市民社会全体の問題になっていく可能性もあるので、この辺しっかり取り組みましようっていうことは、県教委には申しあげたことがございました。出雲市ももちろん取り組んでおられると思えますけども、この辺についても注意が必要だというご意見をいただいたということです。ありがとうございました。</p>

<p>委員</p>	<p>私は、稗原に住んでいまして、子育てをするっていうところで、乙立幼稚園が3月末で閉園になったとか、それから上津幼稚園も園児が非常に少ない、稗原幼稚園ももう存続の危機っていう。出雲市がつくっている、2年連続10人未満だったら、幼稚園の廃園の対象にするっていうルールがありまして、稗原もですけども、上津も乙立も本当に地域を挙げてすごい努力をしていらっしゃるんですね。その一方で、こうやって希望のところに入れぬ地域もあり、周辺部、中心部の格差が広がっているのは、市長をはじめ執行部の皆さんも分かっているし、私たちも感じている。何でこうなるんだらうっていうのは、何もここだけの責任ではなくて、地域をどうつくっていくのかっていうところだと思うんです。私はやっぱり、どこに住んでいても、子どもと親が健やかに子育てをし、保育ができることが大事だと思うんですけども、出雲市っていろんな地域、特色があるって言いながら、2年、10人未満だったら廃園しますっていうのもあると。私は非常に矛盾を感じるというか、具体的に言うと、例えば大津に住んでいる子どもたちが、上津幼稚園に行っておられます。幼稚園も、校区は決まってないんですよ、たしか、どこに行ってもいいんですよ。稗原、乙立、上津、朝山、本当にものすごい努力をされているんです。ですから、本当に出雲市のそれぞれの地域の特徴を生かした子育てができるようになるといいなと思っています。</p> <p>これは、幼稚園、保育園に限らず、児童クラブとか全部つながっていきますけれども、今、SDGsとかコロナ危機の中においては、都会の人が地方に分散するように、出雲市の中だけ見ても、出雲市をどうつくっていくのかっていう部分の一つとして、ここでも引き続き、私も皆さんのご意見を聞きながらと思って、この中間見直しに当たって発言いたしました。意見です。</p>
<p>会長</p>	<p>ありがとうございます。非常に大切な視点だと思います。なかなかこれは難しく、子ども・子育て支援法っていう法律自体が国の法律で、国の予算を引いてくるための骨組みがありつつ、地域に必要な施策を回していかなきゃいけないっていう、その両方のバランスを、みんな潤沢なお金があるとは言えない中でどうするかっていう議論になっていて、なかなか難しいのかなって思いました。</p> <p>昨日、定住関係の会議があって、そこにも出させてもらったんですけど、なかなかそこでも、やっぱり国の施策自体が本気で地域の振興に向いてないような気がするっていうことをおっしゃっておられまして、いつも地方創生、地方創生って言うんだけど、どのくらい本気度があって言って</p>

事務局

いるのかが非常に疑わしい施策が幾つかあるみたいなおことをおっしゃっていて、やっぱり島根県は島根県で独自のことも考えていかなきゃいけないと。そのためにはやっぱり一定の財源が必要だということ、出雲市もやっぱり同じで、真ん中とそれから周辺部とでは大分条件が違うんだけど、それをどういうふうに必要な税金で回していくかみたいなことは、知恵を出さないといけない部分かなってちょっと思ったりはしました。

ほかにいかがでしょうか。なかなか、根本的な議論も小さい議論も全部やらなきゃいけないんで、難しい会議かなと思います。私、一人一人当てるのは好きじゃないので、今日これで終わらせていただいてよろしゅうございますか。

そうしましたら、本日もご協力いただきましたこと感謝申しあげまして、本日の委員会、ここまでにさせていただきたいと思っております。ありがとうございました。

〔事務局あいさつ〕

本日は、皆様大変お忙しいところ、また、連日、熱中症警戒アラートが鳴るとい暑い中お出かけいただきまして、誠にありがとうございました。第1回子ども・子育て会議ということで、皆様方からたくさんのご意見をいただいたところでございます。また、日頃から皆様方には、それぞれのお立場で、いろいろとご指導、ご助言をいただいておりますこと、まずもって感謝申しあげたいと思っております。

市といたしましては、本日、いろいろとご説明をさせていただきましたが、子ども・子育て支援事業計画、こちらを子育て支援、子ども支援の基盤ということで、制定、取り組んでまいりたいと思っております。先ほど、ご意見の中でも、子どもの貧困ですとか、児童虐待、相談、そういったお話、あるいは、外国籍の子どもさんの話と、いろいろございましたけれども、冒頭市長からの挨拶にありましたように、来年の4月に国ではこども家庭庁が発足するという運びになっておりまして、そういった中で、様々な困難を抱える子どもたちをどう支援していくかということも、全国各自治体にも課せられた使命ではないかと思っております。そういった視点も踏まえつつ、この計画の中で、こういった形で盛り込むかということも含めまして、ご議論いただきたいと思います。次回以降のところで、具体の計画等についてもご説明させていただきますので、ご意見を頂戴したいと思っておりますので、引き続きのご指導、ご鞭撻をよろしく願います。本日は誠にありがとうございました。

〔閉会〕